

令和4年度第1回都市機能の整った快適なまち推進懇話会概要

日 時 令和4年5月20日（金）

14時00分～16時00分

場 所 逗子市役所5階第1会議室

・ 議題

- (1) 都市機能の整った快適なまち推進プランの進捗状況の評価について
- (2) その他

・ 出席者

佐藤晴大座長	武藤浩二副座長	
長坂祐司メンバー	田中克己メンバー	木谷和三郎メンバー
石井達郎メンバー	関 基治メンバー	仁科英子メンバー
雲林隆継メンバー	須田正二メンバー	

・ 欠席者

(池子小学校区住民自治協議会のメンバーは改選中のため欠席)

・ 事務局

須田環境都市部担当部長 津田都市整備課長 大澤都市整備課副主幹
津金都市整備課主任

・ 傍聴者 0名

・ 記録者 津金

1. 開会

事務局より、令和4年度第1回都市機能の整った快適なまち推進懇話会の開催を宣言した。
また、開催にあたり須田担当部長より挨拶をした。

2. メンバー紹介

出席メンバー及び事務局の自己紹介を行った。

3. 都市機能の整った快適なまち推進懇話会について

事務局より、配布資料（都市機能の整った快適なまち推進懇話会について）に基づき、本懇話会の趣旨及び役割について説明を行った。

4. 議題

議題に入る前に座長を昨年度に引き続き、社会空間研究所 佐藤メンバー、副座長を沼間
住民協 武藤メンバーと決定した。以下、座長により会議進行をした。

議題

（1）都市機能の整った快適なまち推進プランの進捗状況の評価について

座長より進捗状況の評価についての説明。総合計画審議会に諮っていく必要があるため、
重点事業とリーディング事業について、先に議論していく旨を説明した。

（質疑応答・意見）

基本目標（1）：都市環境の改善

狭あい道路整備事業

【長坂メンバー】 申請件数は地権者からの申請数か。

【事務局】 その通りである。

【石井メンバー】 土地所有者の寄附が原則であるとのことだが、土地所有者のメリット
は。

【事務局】 自費で維持管理しなくてよくなることや周辺地域に緊急車両等を通すために
より安全な広い道路を市で管理してもらうことができることである。

【石井メンバー】 狭あいが減らないのは、以前は建築許可の際に手続きが甘かったので

はないか。今もそのような状況であれば直した方がよいのでは。

【事務局】許可手続きは県であるため法律上難しいが、今年度、要綱を改正して事業者が自ら手続きや整備等を行った場合にも補助金を出すという仕組みを作ったことで、多少の改善は図れたのではと思われる。

【佐藤座長】4 m以上の道路に2 m以上接してないと建物が建てられないという最低限の法律があるので、それを守るというのは義務だが、それを負担なく進められるように市が支援をするというのが、事業の趣旨と思われる。少しずつこのような取り組みを積み重ねて改善を図っていくことが良いと思われる。

【田中メンバー】2022年度の目標が222件ということで最終の目標に対してあと2件で達成するというところで、順調という評価でいいと思うが、個別事情の欄に記載してある社会情勢の変化や国の政策に左右されやすいこと等の個別事業が影響して、事業が成り立つのか。

【事務局】目標値を達成したからといって、市道全体の65%しか狭あい率が改善されていないので、今年度に要綱の改正を行う等の新たな手法の導入や、より周知をしてもっとご協力いただける方を増やすことが必要である。そういう意味で全体的な課題があるが、4年後の目標値としてはこの数字なので、あくまで年度進行としては順調とした。

【田中メンバー】社会情勢の変化とか国の施策に左右されてしまう等のマイナスな書き方であったので、確認した。

【事務局】件数的には順調だが、取り巻く事情としては、国の補助金が現在ついていますが、数年後にはなくなる方向ということを出している。そうすると全部市のお金という話になる。また、逗子一帯は土地があまりないというふうに言われていて、建築確認をとって、建て替えるときに狭あい道路を広げる最大のチャンスと言われている中で、その建て替え自体が可能かどうかというところもある。様々な個別の事情がある中で、件数としては年8件を目標に取り組んでいるので、その内容では順調であると示している。逆風が吹いている中で申請件数自体増えているので、基本的には順調であると思われる。

【佐藤座長】進行管理表の記載の仕方、他の事業には個別事情が記載されていない。

その中で、狭あいの事業だけ否定的な内容の個別事情を書かれていると、違和感があるので、改めて検討してもらいたい。

【事務局】了解した。

【長坂メンバー】建築基準法上のセットバックは公共性の最たるものなので、相続などがあつたときには、優先的に所有者は提供する義務があると理解している。建築基準法に則って幅員4mを確保することを所有者によく理解していただくことをお願いしてほしいと思う。

【石井メンバー】整備計画の65%を80、90%目指すために、メリットがあるということを経験から広告知をしてもらいたい。

【長坂メンバー】問題となるのは、本当に実態はそうなのかということだと思う。申請をしていないだけで、本当はもっと狭あい道路があるのではないかというようなことが、市内を歩いていたりすると感じられる。

【事務局】今後、何を目標にするかも見直しの際には再検討する。どういうところに視点を置いて、何を達成すれば一定の成果を得られるのかということから見直しをしたい。

【佐藤座長】予算上の申請件数は。

【大澤副主幹】昨年度は8件である。ただし、目標となる金額を毎回使うわけでもないので、予算内でおさまればより多くできるという年もある。

崖地対策事業

【石井メンバー】実際の現場では所有者が崖地対策をしなければならない。所有者がお金を出せないというときに、壁にぶつかってしまう。これは大きな問題だと思うが、以前と比べると市の対策も良くなっており、評価するので順調でいいのではないか。

【事務局】市民の意識も変わったということを実感している。進行管理表に記載しているように、今までは行政へ要望するだけであつたのが、住民協の方々と一緒に現場を見に行ったり、一人一人所有者を当たっていただいたり、どちらかという一

緒にやっっていくという感覚を非常に感じている。

【佐藤座長】他事業にも共通すると思うが、成果としてこんなに頑張ったということをもう少し書き込んでも良いと思う。

下水道施設再整備事業

【木谷メンバー】下水処理に雨水処理も兼ねてしまうと、非常に希釈されるので、処理費用は分けたほうが安くなるのでは。長期的には雨水の処理については河川に放流するというのが妥当でないか。

【須田メンバー】ハイランドと古くから整備をした逗子の旧市街地については、分流という汚水だけの管に流れているということではなくて、雨水と汚水が住宅の敷地内で一緒になり流れている。なので、雨水と汚水を完全に分けられればいいが、旧市街地とハイランドについては分けられていない。

【木谷メンバー】順々に分けていくという計画はないのか。

【須田メンバー】ハイランドについては、現在、少しずつ合流改善ということで行っているが、旧市街地については今のところ計画はない。下水道事業はすごくお金がかかる。処理場の建て替えでも何百億というような費用がかかってくる。下水道管自体も50年使って少しずつ老朽化しているので、そこの改修もしていかなければいけない。下水道管自体の地震対策もできておらず、今後行っていないといけないため、費用が非常にかかってくることから、合流改善まではまだ回らない状況である。

【木谷メンバー】令和4、5年の基本構想で来年度ぐらいまでには、下水道の方策が出るということか。

【須田メンバー】その通りである。まず建て替える処理場の位置が確定する。

【木谷メンバー】予算が数百億かかると言われているが。

【須田メンバー】国から補助金が半分交付される予定のため、半分を除いた金額が市民の税金や下水道使用料等で今後負担していかなければならない費用になる。また、建てる場所も決まっていないので、ネットに掲載している費用は、現在の貨幣価値で概算を見積もったものである。今後、同じ場所で建て替えるとなると、一部壊し

て、少し造ってと使いながらやっていくので、非常に工期が延びて、建て替えるのに 20 年間かかるという計算である。

【石井メンバー】 建て替えが必要だということで、工程を組んで、プロセスについて検討したということか。

【須田メンバー】 令和 3 年度までに再整備の基本方針を策定するという事なので、まずそこは達成されているという評価である。

【石井メンバー】 再整備をしていくのは大変であり、そのようなプロセスは大切だと思われる。その中で水関係の処理はすごい電気を使うという話を聞いていて、ゼロカーボンの観点を専門家がチェックした上で作っているのか。

【須田メンバー】 今の処理場は非常に電力がかかっている、年間 7,000 万円ぐらい費用がかかっている。その中で、将来的には再生可能エネルギーでつくられた電気を使って処理をしていきたいと思っている。現在とどの程度の違いの設備でつくれるかというのは実際に設計に入った際に明らかになる。市の政策としても出ているので、意識はしている。

【石井メンバー】 これから基本方針のプロセスに従って行っていく。したがって、令和 3 年度までは順調であるという評価でよいと思われる。

【田中メンバー】 葉山町からの呼びかけでと書いてあるが、葉山町は何とって声をかけてきたのか。

【須田メンバー】 処理場の再整備について葉山町に伝えていたところ、もし必要であれば、葉山町の処理場も検討に加えてもらえたらどうなのかという話をいただいた。

【田中メンバー】 葉山町でメリットや要望等があった上での話であったのか。

【須田メンバー】 当然、逗子が加わることによるメリットを、葉山町も考えている。逗子と一体化することによって、スケールメリットで処理コストが安くなるのではないかと、市に声をかけてきたと思われる。

【長坂メンバー】 新しく汚水処理場を作るときには、地形を利用して、外部負荷のかからないところとすることを、専門家の意見を考慮して、検討をお願いしたいと思う。

【佐藤座長】 非常に長期にわたる事業を着実に進められているということで、将来を見通して今後も円滑に、よりよい形で進めていただければと思う。

基本目標（２）：バリアフリー化の推進

歩行者と自転車を優先するまち推進事業

【佐藤座長】電動キックボードの話が以前指摘されていたと思う。東京都内などでも走り回っていて、今後、道交法等はどうなるのか。逗子市の場合はどうのような状況なのか。

【環境都市課坂本係長】電動キックボードは神奈川県内では横浜市がみなとみらい地区で実証実験をスタートしていると聞いており、逗子市内でもごくまれに電動キックボードを利用されている方がいる。逗子警察にたずねると、非常に交通安全の側面から心配だという声もあるということなので、逗子警察と一緒に安全についての啓発などは積極的に行っていきたいと考えている。これから利用が増えていくだろうということは想定されるので、交通政策として市としてどういった対応をするか考えていかなくてはいけないが、まだ具体的に市としての対応が定まっているわけではない。

【石井メンバー】歩行者と自転車を優先するまちというのは、特に逗子市のように道路面積の限られた場所で車がどんどん増えたため、コンパクトなまちでは自転車を有効活用してということで提案されたプランだろうと思う。しかし実際は、例えば山の根の線路の脇に県道があるが、歩道が非常に狭くて、最近が高齢化が進んでいることもあり、車椅子やシニアカーが通ろうとするが通れなくて、歩行者も対向で通ろうとするとなかなか通りにくい。そのような中で歩行者が歩くところを自転車が飛ばしてきて非常に危険な状況である。そういう意味で、ちっとも快適ではないというのが実感である。何が原因かを考えると、それは警察と行政で危険な自転車を取り締まる交通システムの中で、抜本的に考えなければいけない問題だと思われる。そんなに簡単な問題ではないと思うが、考えていただくことが大事と思われる。

【木谷メンバー】自転車が左右両側で平気で走っている。歩道を走っているという話はあったが、こういうケースが非常に多いので、自転車も車両ということで、左側通行だと思うが、注意看板は見当たらない。

【佐藤座長】なかなか難しい課題だと思うが、今後に向けてということで考えると、19年度にアクションプランを策定されたということで、これに従って警察と連携し

て粘り強く取り組むことが大事だと思われる。

【石井メンバー】アーデンヒルで乗合タクシーの実証実験をしたということだが、結果はどうだったか。

【環境都市課坂本係長】昨年度、アーデンヒルと東逗子駅を結ぶ路線ということで、乗合タクシーの実証運行を実施した。無料体験の際に、たくさんの方に乗っていただいて、高齢の方や子供連れの母親等乗り合うことも多かったが、タクシーの稼働が低い時間帯と、午前10時から午後4時ぐらいまでの時間帯をメインに運行をした。そうすると、一般的に通院であったり、買い物は午前中に決まっているとか、そういった方々のニーズにマッチしなかったというところと、帰宅する時間帯には使い勝手がよくなかった。また、電話の予約を前日までに入れることでスタートしたので、翌日の行動を考えながら使うというのも、難しかったというふうに考えている。さらに、コストの面でタクシーのメーター料金で精算をしたことや1日当たりの運行管理費がかかったりと、利便性とコストの面で非常に課題があって、地域主体の自治会が運営主体となって運行する想定で、令和2年度に本格運行にいたればということ考えてはいたが、自治会でも現状では難しいという声もあり、いま一度、実証実験を踏まえて分析をして、持続可能な方策をもう一度検討していくというような状況である。

【石井メンバー】高齢化すると運転できないため公共交通機関を使う。公共交通機関が十分でないということになると、このような事業は大事になってくるので、何とか持続可能で回るような形にしてほしい。

基本目標（3）：土地の利活用

JR 東逗子駅前用地活用事業

【長坂メンバー】進捗状況の中で、南側民有地の地権者と交換により交渉した結果、協議が不調となったということだが、交換というのは様々な条件があるので、法律の流動的な運用を含めて、交換により事業が推進される一つの要素があるのであれば、もう一度交換という協議をしてみたらいかがか。

【仁科メンバー】道路に並行する形で薄い民有地があり、どういう形であれば交換できるかという回答を12月にいただいたが、先方の希望が駅寄りの場所で、それ以外は折り合えないという話をいただいてしまったので、土地交換ということを諦めた。そのため、金額や面積というより、場所の問題が一番の要因となった。

【武藤副座長】進捗状況について2018年当時は、基本構想を年度内につくり、実施設計、整備工事とかなりスピード感があり、私が所属する沼間の住民協のほうでも会員から意見を聞いて、市長に要望書を出したという経緯があり、非常にこの事業については沼間地区では関心が高いのは理解いただいていると思う。現在は、基本構想の策定はどのようなスケジュールで今、予定されているのか。

【仁科メンバー】民地と一体化した計画で進めようと思っていたのが、2018年時点に戻るような形になるが、予定としては、基本構想案を今年度策定する。構想を策定した後に、基本計画をつくるのを令和5年、6年と考えている。その後、基本設計、実施設計を行うということで、現在の順調でない年度別計画でいうと、本来ならば工事が2022年になっているかと思うが、2026年に施工をできるようなスケジュールという予定である。ただ、遅れたことが悪いことばかりではなくて、工夫している点で、この間に新しい補助金が創設されて、公共施設の集約等に充てられるようになった。また、この土地が今、土地開発公社の土地なので、市が整備する際に土地を買い戻ししなければならない。建設以外にかかる費用だが、公共施設の集約等を行うときには、土地の買い戻しにもその補助が充てられるという状態になり、時間がかかってしまったが、国の新しい補助金の活用ということ視野に入れて検討していけたらと思っている。

【武藤副座長】地元では、現状の利用形態について期待をしている意見もあるし、いろいろ関心が高いところだが、計画も工夫して早く実現してもらいたいと思う。

【石井メンバー】イメージとしては東逗子の昔からあった商店街がこのプロジェクトで整備されて、また新たな東逗子として前に行けるのかなということを期待していたが、交渉がうまくいかないということで、あまりイメージは変わらないと思われるので残念だ。

【仁科メンバー】土地交換交渉も大変時間がかかり、やはり一体的に整備したほうが

良いと思い今まで進めてきたところで残念だが、時間がかかったところでいいこともあった。予定地に沼間の小学校の放課後児童クラブが入っているが、この間に小学校でプールをやめるということになり、小学校のプール跡地に放課後児童クラブを2年後には移転できることになった。初めはどこにも行き場がなければ、放課後児童クラブも集約する施設の候補としてあったが集約の対象ではなくなった。学校の中に放課後児童クラブが移転できるというよさもあると思う。

【木谷メンバー】建設にあたっては補助金がつくのは分かったが、そこに入ってくるのは、建設費用だけ。その後、一定の利用収入等があるならいいが、財政的にはどうなるのか。

【仁科メンバー】例えば桜山にある福社会館は、同じ場所に建て替えるということももう考えられないので、売却する。そうすると、その土地のお金というのが収入になる。そのような形でコンパクトにまとめていき、公共施設の総面積は圧縮していく。そのため、維持管理コストは下がっていく。

【長坂メンバー】次に向けた財源の確保、国からの補助とか、そういったものも全て、次のパフォーマンスもされているというところでは、順調であるという表現でもいいと思われる。

【佐藤座長】要は、どの視点に立って見るかということになると思う。当初立てた計画から言えば、順調じゃない現状を受け入れるということで、このような評価が出されていると思う。それはそのとおりだが、その先に次の目標を立ててそれに向かって様々調整を続けていくという今後の未来に向けてはよいステップを押し進めると考えられる。

基本目標（4）：公共施設の統廃合・再編・長寿命化

公共施設の統廃合・長寿命化

【佐藤座長】進行管理表に記載がなかったが、進行管理は逗子市行財政改革推進本部で行い、評価をしていくとなっているため、本懇話会ではその報告だけ行う。

【事務局】昨年度の実績としては、令和4年1月に逗子市行財政改革推進本部にて進行管理を行ったということであった。内容に対する意見は、特になかったとのこと。

市営住宅整備事業

【佐藤座長】市営住宅のバリアフリー化を進めていくということで取り組んでいただいた。小坪滝ヶ谷第三住宅がバリアフリー化されてなかったということで、100%のバリアフリー化ができていなかったというのが実情であった。しかしバリアフリー化できていなかった住宅は、用途廃止という位置づけが決定をしたので、結果的に全ての市営住宅はバリアフリー化が既にされているということで、順調に予定どおり進んで、目標が達成されたということになる。

全体総括

【佐藤座長】都市環境の改善については順調である。ただ、土地の利活用については、順調であるとみなせない。総括としては、取組はある程度達成できたという総合評価としたいということで、B 評価ということが示されている。先ほどの特に東逗子の件については、立場によっていろいろ見方も変わってくるというところもあると思うが、全体としては素直に B という形でよいと思う。

(2) その他

【事務局】本日いただいた意見をまとめて、事業進行管理表を作成し、できたものは概要とあわせてお送りする。なお、様式のものにつきましては、総合計画審議会に諮らせていただく。

第2回懇話会については、9月に開催することを考えているが、本日、進行管理表のその他事業の意見等をいただければということで、9月に開催させていただくことを考えているが、改めて日程等は通知する。